



No.46

31.August.2020

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website <http://www.hpcj.org/> E-mail info@hpcj.org

役員改選のお知らせ

2020年7月18日(土)に開催されたZOOM総会にて新たに理事が選出されました。また、8月1日に開かれた新理事会において、理事長、副理事長が選出され、新体制がスタートしました。

理事長再任のご挨拶 — 協会会員の皆さんへ
わたしたちは大きな歴史の転換点にいる



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真 泰夫

わたしは、去る2020年8月1日に開催された第33回理事会で、理事長に再任されました。理事のみなさんからのご支持に感謝するとともに、これからの平坦ではない道のりを思うと身が引きしめる思いです。顧みると、わたしが山崎前理事長から理事長を引き継いだのは、2010年8月でした。それから10年という歳月が流れました。2020年度は1991年10月の「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」発足から30周年となります。そこで、2021年11月に30周年行事としてアジア太平洋ホスピス緩和ケア大会（APHC2021）開催を引き受けました。しかし、APHC2021は新型コロナウイルス感染症のパンデミックという新たな事態に伴い、予定通り開催するか、開催方法や開催時期を見直すか、という状況になっています。

変化は加速している

世界に目を転じてみると、ヨーロッパから南北アメリカ、南アジア、アフリカへと感染は拡大しており、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは収まる気配はありません。未知のウイルスによる感染症の広がり、緩和ケアや医療のみならず、社会経済のあり方そのものに大きな影響を及ぼしています。

緩和ケアの領域では、国際的にプライマリケア（地域における基本的な保健医療）の領域との統合のプロセスがすでに始まっています。WHOは2018年から世界各国にプライマリケアと緩和ケアの統合を呼びかけています。この国際的な変化の潮流は始まったばかりですが、わたしは新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより今後は加速していくと思います。

広がりや深まりはともに大切

一方、日本では専門的緩和ケアが、健康保険制度に組み込まれており、緩和ケア病棟入院料ではがんと後天性免疫不全症、緩和ケア診療加算ではこれに「末期心不全」が対象疾患として追加されています。したがって、専門的緩和ケアの対象疾患は限定されていると言えます。しかし、在宅緩和ケア充実診療所・病院加算では、要件としてがん診療の実績が求められていますが、対象疾患は限られていません。

本来、緩和ケアは、がんだけではなく、あらゆる生命を脅かす病と共に生きる患者さんとご家族の困難や苦悩に対応し、QOLを向上するアプローチであり、また病院・在宅・施設を問わず全ての生活の場で提供されるべきものです。わたしは、在宅緩和ケアの領域を手掛かりとして、再度、基本的緩和ケアと専門的緩和ケアの関係を問い直す必要があると思います。

歴史の変わり目には、これまで隠れていた矛盾が露わになったり、思いもしない方向に物事が動いてゆくものです。わたしたちは、不確実さの前でたじろがず、これまでの経験や決まりごとにとらわれず、しかし、誠実に着実に一步一步前を向いて進んでゆきたいと思っています。

副理事長就任のご挨拶



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 安保 博文

この度、志真理事長のご指名により副理事長を務めることになりました。今後2年間、微力ではありますが、副理事長として志真理事長を補佐することで協会の活動のさらなる推進のために尽力したいと考えています。

私は、協会加盟施設のケアの質を改善する活動を支援する「質のマネジメント委員会」の委員長としてこれまで5年間活動してきました。スタッフ全員による評価をもとに改善に向けたカンファレンスを行う「自施設評価共有プログラム」、全国各施設の師長と医長が一堂に会して討論を行う「緩和ケア病棟運営管理者セミナー」などを企画し実施する中で、各施設の生の声を聴かせていただくことができました。どの施設においても、診療報酬改定に基づく経営管理者等からの要請に対応しつつ、個々の患者家族により良いケアを提供するために、様々な苦勞を重ねながら運営に当たっておられることを強く実感しています。副理事長としての任期である今後2年間、会員施設の抱える課題や各地域での緩和ケアへのニーズを踏まえつつ、協会として行うべきことを提案し、各施設の支援となる活動を実践できるよう努力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 宮下 光令

この度、副理事長を仰せつかりました東北大学の宮下です。現在は、緩和ケアデータベース委員会の委員長を拝命しております。

協会の年次大会に初めて参加したのは、まだ協議会でした20年前でした。緩和ケアの教育・研究者として駆け出しだった私は、現場の熱気溢れる本会に大変興奮したことを覚えています。その後、私をはじめ取り組んだ研究でもある「STAS-J」の講習会を年次大会時にさせていただき、現在も取り組んでいる遺族調査「J-HOPE研究」にご協力いただき、協会および会員施設のみなさまに研究者・教育者としても育ててもらったと思っております。今回、副理事長の打診をいただいたときに、私のようなものがと躊躇いたしました。御恩をお返しするよい機会と思ひ、誠心誠意取り組ませていただく所存です。

緩和ケアデータベース委員会ではこの数年、インターネットを利用した遺族調査システムを開発して参りました。認証制度に遺族調査などの第三者評価の項目がありますが、各施設で遺族調査をするのは大変でしたので、協会として仕組みをつくっておくことになったためです。また、今までは4年に1度実施されるJ-HOPE研究への参加をもって申請いただく施設が多かったのですが、4年に1度ではなく、恒常的に遺族調査を行うような仕組みも求められておりました。このシステムは現在、ほぼ完成し、本年中には会員施設にご案内する予定です。また本委員会では兼ねてから行わ

れてきた施設概要調査や在宅緩和ケアに関わるデータベースの充実を図るとともに、質のマネジメント委員会、医療・介護保険委員会などの連携を深め、会員のみなさま、およびわが国の緩和ケアの発展に貢献すべく努力いたします。今後もご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
副理事長 田村 恵子

前期に引き続き副理事長を拝命いたしました京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 緩和ケア・老年看護学分野の田村恵子でございます。これまでは看護師教育支援委員会の委員長として、専門的緩和ケアを担う看護師の教育プログラム（SPACE-N）の開発・実施を中心に取り組んで参りました。成果としましては、全国に330名の修了者が誕生し、プログラムの基盤である「対話」が各地で根つきつつあることです。さらに、今年度はまだ修了者が十分ではない東北での開催を予定しておりました。しかし、COVID-19感染症の蔓延で開催を見合わせることになりました。今期も引き続き看護師教育支援委員会委員長を仰せつかりましたので、皆さまに対して継続的な教育プログラムの提供が行えるような方法について検討すると共に、前期からの課題である専門的緩和ケアに従事する看護師のクリニカルラダーの開発・提供に取り組みたいと考えております。

また、COVID-19感染症の蔓延で本協会活動そのものについて検討する必要がさまざまな場面で生じていると痛感しております。我が国における専門的緩和ケアの推進、充実に向けて関連学会・団体などとの連携体制の強化に向けて、理事長、副理事長ならびに事務局スタッフと共に取り組んでいきたいと思ひます。2年間、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【新体制】

理事長	志真 泰夫 [筑波メディカルセンター病院]
副理事長	安部 博文 [国家公務員共済組合連合会 六甲病院]
同	宮下 光令 [東北大学大学院 医学系研究科]
同	田村 恵子 [京都大学大学院 医学研究科]
常任理事	理事長・副理事長
	石原 辰彦 [岡山済生会総合病院]
	矢津 剛 [矢津内科消化器科クリニック]
	中橋 恒 [松山ペテル病院]
	恒藤 暁 [京都大学大学院 医学研究科]

第13回総会をZOOMにて開催しました

2020年度の年次大会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となりましたが、第13回総会は7月18日(土) ZOOMを使用しオンラインで開催いたしました。事前に参加申込をいただいた80名の議決権者には、事務局で作成したZOOMマニュアルをお送りし、事前に2回のテスト会議を設けました。

総会当日は72名の参加があり、委任状提出の205名と合わせて総会の定数を満たしました。はじめに事務局より2019年7月の総会以降の入退会状況が報告され、続いて理事長より2019年度事業報告・決算について説明が行われ、総会の承認を得ました。また、2020年度の事業計画および予算が理事会で承認された旨の報告がされた他、役員の変更についての審議、2020年度の診療報酬改定等について意見交換が行われました。

初めてのオンライン総会に参加、ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

専門委員会の活動について

当協会の委員会の任期は役員と同じ2年間となっております。8月からの新たな委員会体制と、主な活動内容をご紹介します。今後の活動内容につきましては、総会議事録等でご確認ください。

(◇: 委員長)

認証委員会

◇高宮 有介(昭和大 医学教育講座 教授)
志真 泰夫(筑波メディカルセンター 代表理事)
河 正子(緩和ケアサポートグループ 代表)
丸口ミサエ

- ・ホスピス・緩和ケア病棟のケアの質向上の取り組みに関する認証申請の審査、認証状の発行。
- ・認証制度に関するアンケートの実施、認証制度のあり方について検討。

緩和ケアデータベース委員会

◇宮下 光令(東北大学大学院医学系研究科 教授)
橋本 淳(岡崎市立愛知病院 緩和ケア内科統括部長)
橋本孝太郎(ふくしま在宅緩和ケアクリニック 副院長)
笹原 朋代(東京女子医科大学成人看護学 教授)
佐藤 一樹(名古屋大学大学院医学系研究科 准教授)
關本 登子(国立がん研究センター中央病院 副看護部長)

- *施設概要調査ワーキンググループ:
 - ・毎年実施する施設概要・利用状況調査の調査項目について検討、集計データを元に報告書を作成。
 - ・毎年1月～4月にかけて、在宅緩和ケアに関する現況調査を実施、報告書を作成。
- *遺族調査ワーキンググループ:
 - ・インターネット遺族調査システムの構築。今秋運用開始。

質のマネジメント委員会

◇安保 博文(六甲病院 緩和ケア内科部長)
中谷 玲二(洞爺温泉病院 理事長)
池永 昌之(淀川キリスト教病院 緩和医療内科主任部長)
柏谷 優子(辻仲病院 緩和ケア病棟看護部長)
足立 光生(神戸アドベンチスト病院 看護部長)
岡本 禎晃(市立芦屋病院 薬剤部長)
大園 康文(防衛省防衛医科大学 准教授)
石井 友恵(早稲田大学大学院人間科学研究科)

- ・緩和ケア病棟運営管理者セミナーの実施。
- ・隔年自施設評価共有プログラムを実施。結果と実施後に行うアンケート結果をまとめ、報告書を発行。
- ・緩和ケア病棟運営管理者のための手引きの発行・改訂。

多職種教育支援委員会

◇石原 辰彦(岡山済生会総合病院 診療部長)
坂下 明大(神戸大学医学部附属病院腫瘍センター 特定助教)
大坂 巖(HITO病院 緩和ケア内科統括部長)
蛭田みどり(ケアタウン小平訪問看護ステーション 管理者)
嶽小原 恵(淀川キリスト教病院 薬剤部)
福地 智巴(静岡県立静岡がんセンター 医療ソーシャルワーカー)
太田多佳子(松山ベテル病院 医療ソーシャルワーカー)

- ・多職種を対象とした教育プログラムの検討と開催。
- ・緩和ケア病棟における医師研修指導指針の見直し。
- ・MSW教育支援ワーキンググループによるMSWセミナー開催。

看護師教育支援委員会

◇田村 恵子(京都大学大学院医学研究科 教授)
新幡 智子(慶應義塾大学看護医療学部 専任講師)
市原 香織(京都大学大学院医学研究科がん看護専門看護師)
川村三希子(札幌市立大学看護学部 教授)
菅野喜久子(やまと在宅診療所 がん看護専門看護師)
高野 純子(藤沢湘南台病院 緩和ケア病棟副看護部長)

- ・専門的緩和ケア看護師教育プログラム(SPACE-N)の実施。
- ・SPACE-N修了者対象のフォローアップセミナーの開催。
- ・緩和ケアに従事する看護師のクリニカルラダーの作成。

医療・介護保険委員会

◇中橋 恒(松山ベテル病院 院長)
河 幹夫(神奈川県立保健福祉大学 名誉教授)
末永 和之(すえなが内科在宅診療所 院長)
林 章敏(聖路加国際病院 緩和ケア科部長)
山田 祐司(愛和病院 院長)
田村 里子(WITH医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部部長)
風間 郁子(筑波大学附属病院 がん看護専門看護師)
村井 扶(ソーク薬局 管理薬剤師)

- ・診療報酬改定内容の精査。現状把握のためのアンケート調査の実施と課題の検討。
- ・診療報酬改定への提言をとりまとめ、厚生労働省へ提出。

在宅緩和ケア委員会

◇矢津 剛(矢津内科消化器科クリニック 理事長)
山崎 章郎(ケアタウン小平クリニック 院長)
足立 誠司(鳥取市立病院 診療局長)
井尾 和雄(立川在宅クリニック 理事長)
白山 宏人(大阪北ホームケアクリニック 院長)

- *委員会の目的: 在宅における緩和ケアの質の向上
- ・「在宅緩和ケアの基準」の周知。
- ・在宅緩和ケアに関するデータ収集。
- ・診療報酬・介護報酬改定への提言 など。

2020年度 各事業への取り組み

今春より、新型コロナウイルス感染症の拡大により、会員の皆様におかれましても様々な影響を受けていらっしゃるかと存じます。

また、令和2年7月豪雨による被害を受けられた会員の方もいらっしゃるかと存じます。困難な状況に向き合われている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

当協会でも年次大会をはじめ、全国各地で開催する支部大会や、専門的看護師教育プログラム（SPACE-N）など、これまで協会の事業として重要な役割を果たしていたプログラムを中止せざるを得ない状況となりました。このような状況を受けて、今年度は下記のように取り組んでいくこととなりましたので、ご報告いたします。



事業1 啓発・普及

- ・ホスピス緩和ケア週間：10月4日(日)～10日(土)
会員からホスピス緩和ケアに関する動画を募集し、Youtubeに掲載する形で開催。

事業2 教育・研修

- ・ELNEC-Jステップアップセミナー[九州支部]
10～11月オンラインで開催
- ・SPACE-N修了者フォローアップセミナー
10～11月オンラインで開催

事業3 質の向上・調査研究

- ・施設利用状況調査：報告書の発行とホームページ掲載
- ・施設概要調査：ホームページ掲載（12月頃）
- ・インターネット遺族調査：9月頃に利用方法を会員へ案内。今秋オンライン説明会などを開催し運用開始。
- ・緩和ケア病棟運営管理者のための手引き発行（9月）
- ・緩和ケア病棟運営管理者セミナー
11月15日オンラインで開催

事業4 広報・情報交換

- ・ニューズレターの発行。メールマガジンの新規発行。
- ・支部幹事会オンライン開催。

事業5 国内外連携

- ・Asia Pacific Hospice Palliative Care Network (APHN)、国内関連団体とオンラインでの意見交換

オンライン会議の開催支援について

協会事務局ではZOOMを契約し、支部が幹事会などをオンライン開催する際に、会議の設定を行っています。

基本的に会議の進行や操作は、支部の担当者に行ってくださいますが、事前に担当者と協会事務局がテスト会議を持ち、使用方法の確認を行うことが可能です。

ZOOMの利用を希望する支部は、協会事務局までお問い合わせください。



緩和ケア病棟

自施設評価共有プログラムの延期

目的

患者と家族を対象とした包括的なケアを病棟として行っているかどうかをスタッフ一人ひとりが評価し、その結果を集計したものを資料として多職種の視点で話しあうことによって、ケアの質改善を目指す。

今後の予定

本プログラムは、2020年秋に実施予定でしたが、COVID-19感染拡大の中で、多職種による話し合いを呼び掛けることは難しいと考え、2021年に延期することとなりました。緩和ケア病棟正会員の皆様には、ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

認証制度申請受付の延期

認証制度とは

- ①ホスピス・緩和ケア病棟の施設や運営状況と医療およびケア提供の状況を社会に公開する姿勢をもつこと
- ②ホスピス・緩和ケア病棟に勤務するすべてのスタッフが参加して自らのケアの質を評価し、多職種による話し合いを通じて、自らケアの質向上に取り組む姿勢をもつこと
- ③第三者と遺族による評価を受けて、その指摘を受け入れる謙虚な姿勢をもつこと

これらの3つの姿勢がわが国のホスピス・緩和ケア病棟のケアの質向上への取り組みとして、ホスピス・緩和ケア病棟の文化になることを目的に、2016年より隔年で申請を受け付けております。

今年度は、申請の受付年度でしたが、COVID-19感染拡大等による病棟運営への影響、自施設評価共有プログラムの延期などの理由により、延期することとなりました。

今年度申請を予定されていた会員施設の皆様に、お詫び申し上げます。

認証状の取り扱いについて

2019年4月に発行した認証状は、2021年3月末日で有効期限切れとなります。

病棟内での掲示や病院ホームページに掲載されている施設におかれましては、一旦取り外していただきますようお願い申し上げます。

今後の予定

認証申請の受付は、2021年の自施設評価を受けて、2022年に再開する予定です。

この度の延期を受けて、認証申請条件や認証期間などを再検討し、よりよい制度作りに取り組んでまいります。

星総合病院（協会正会員）より 台風災害復興記念誌が届きました

ニューズレターVol.44でご報告いたしました、令和元年台風19号により緩和ケア病棟が浸水被害を受けた星総合病院より、台風被害の復興記念誌が届きました。

ホームページからもPDFファイルでご覧いただけますので、ご紹介いたします。

<http://www.hoshpital.jp/kouhousi.html>



筋萎縮性側索硬化症の患者さんに対する 囑託殺人の疑いで医師が逮捕された事件 についての協会の立場と見解を掲載

標記の事件で逮捕された医師の1名について、一部ではクリニックを営み、「ホスピス」の運営や「緩和ケア」の取り組みを行っていたとの報道されました。2名の医師およびクリニックは、当協会の会員ではありませんが、「ホスピス」や「緩和ケア」という名称が使用されていたことに鑑みて、本件に関する当協会の立場と見解を8月1日付でホームページに掲載いたしました。

https://www.hpcj.org/info/hpcj_tachibatokenkai.pdf

◆ホスピス緩和ケア週間

2020年10月4日(日)～10月10日(土)

◆世界ホスピス緩和ケアデー

2020年10月10日(土)

ホスピス緩和ケア週間では、ホスピス緩和ケアに関する自作の動画を募集しています。

内容：歌や朗読、お話、寸劇、病棟案内、ケアの実際の紹介など

時間：5～10分（最大10分/容量500MB以内）

投稿受付期間：9月15日(火)～10月31日(土)

詳細はニューズレター同封の案内チラシ、または協会ホームページをご確認ください。



事務局通信

求人掲載をご利用ください

当協会では、ホスピス緩和ケアに携わるスタッフの充実をはかり、ケアの質の向上を目指すことを目的として、正会員施設の求人情報をホームページに掲載しています。

利用を希望する場合は、ホームページの会員専用ページから求人登録票をダウンロードし、必要事項を記載の上、協会事務局まで郵送して下さい。

掲載期間は四ヵ月（延長申請可能）で、掲載費用は無料です。

2020年度 入退院患者集計フォームを配付開始

当協会の会員専用ウェブサイトにて、2020年度の入退院患者集計フォームの配付を開始しております。集計フォームをご利用いただきますと、2021年4月に実施する施設概要・利用状況調査の際にご回答いただくデータが、自動的に集計されます。

予め、入力を進めていただきますようお願い申し上げます。

日本ホスピス緩和ケア協会 ニューズレター No. 46

発行所 日本ホスピス緩和ケア協会事務局
事務局 〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1
ピースハウスホスピス教育研究所内
TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382
E-Mail info@hpcj.org